

# 上野殿御返事

弘安三年一月三日 五九歳

むしもち すみざけひとつつ やまのいも こうじ くしがき た おわ  
十字六十枚・清酒一筒・薯蕷五十本・柑子二十・串柿一連送り給ひ候ひ畢んぬ。法  
華經の御宝前にかざり進らせ候。

春の始めの三日、種々の物法華經の御宝前に捧げ候ひ畢んぬ。花は開いて果となり、  
月は出でて必ずみち、灯は油をさせば光を増し、草木は雨ふればさかう、人は善根をな  
せば必ずさかう。其の上元三の御志元一にも超へ、十字の餅満月の如し。事々又々申  
すべく候。

正月三日

日 蓮 花 押

上野殿